

1 (5月7日)

本日の新聞概観

第二百二十二號

内閣情報部報道班(一五五七欠)

△概観

本今朝刊は「朝日」が「物動計畫」。「國民」が「支那渡航者制限」をトップにした外、他は何れも地方長官會議乃至支那戦況がトップである。「國民」の「文官制度改革案」が注目される。

外電關係は昨紙と取扱題目異らず、地中海方面の緊迫、伊の動向、英政府改造問題等である。英内閣は輿論の先手を打つて、チャーチル海相に軍權關係を代表させることにして、難局を切抜けることになつたが各紙之を大きく扱ひ「讀賣」は第二面のトップ記事としたが、「國民」「朝日」などが一段抜き見出して下段に雑報視してゐるのは編輯を誤つてゐる。東亞關係では法幣の崩落關係のもの及び昨日報道された戦況の續きが主要で各紙共當該面上欄で重視してゐる。

社會面では各紙に「新考査法を中學校長協會否決」がある外「國民」に「農相米を語る」がある。「讀賣」「法幣下落を衝く」、「報知」「新黨結成運動の再現」、「國民」「地方長官會議の意義」の解説記事があり、「日日」「歐洲戦争と米國財界」、「讀賣」「インフレ下の農村現地報告」本日より

△新聞の要約... (Faint, mostly illegible text in the right margin)

掲載

「讀賣」に「木曜日朝刊四頁」の社告がある。

△國內關係

農林所管地方長官會議に於ける質疑應答が引續き各紙にあるが、「朝日」「讀賣」「報知」に「米の一齊調査考慮」の農相談があり、「讀賣」はトツブにしてゐる。

一、主要物資の在庫高、政府一齊調査を企圖（朝日）

本年度物動計畫は重點主義に相當集中壓縮されたものになる見込であり、このため消費規正強化を圖るに共に主要物資で國內に退蔵されたものを動員し供給増加にあてる方針で各主要物資毎に國內在庫の一齊調査斷行の議が有力と成行を注目してゐる。

二、文官制度改革に對樞府工作（國民）

政府は文官制度改革の斷行に成案を急ぎつつあるが、書記官長、法制局長官は樞府に政治的折衝を遂げつつあり、その成果は旬日中に判明しよう。政府は改革案の目標を（一）身分保障令の撤廢（二）各省人事交流の公正敏速化を期し内閣直屬の統合機關設置の二點に置き實現を期さんとするものである。

三、久原總裁の新黨問題

「都」「國民」は本日久原、町田兩總裁の再會見を傳へ、更に「國民」は「久原總裁の乗出しは民政黨並に政友久原、中島各派内部に深刻な波紋を興へ公後各派の對立勢力が暴露され複雑化する」と見てゐる。「讀賣」は「聖戰貫徹聯盟も各黨内外に運動開始とし一方「有馬伯を中心に近衛公を黨首と異く新黨運動が具體性を帯び久原運動と合流すれば町田總裁も再考」と注目してゐる。

四、其他「物動暫定計畫けふ決定」、「勤勞國民黨十二日結成」、「小林臺灣總督の勇退望まず拓、海相要談（日日）」、「機械工業擴充に近く連絡會議設置（讀賣）」、

△東亞關係

一、對支渡航者制限（閣議決定）（各紙）

二、法幣下落の對策に速かに青木全權顧問派遣（報知）

三、米弗リンクへ華興券乘換説（上海報知）

四、河南作戦關係記事

△歐米關係

一、英内閣改造要望に首相先手、海相を軍權代表者として機構改革（ロンドン同盟）

二、伊參戰せず（ウオード・プライスの説）（ロンドン同盟）非交戰國政策を伊變更せず（ム首相對米通告説）（ローマ同盟）

三、獨ナルヴィイクと陸上連絡説（ベルリン同盟）、ナルヴィイク市英佛軍包圍（ロンドン同盟）

四、獨情報部長、英佛の戦争擴大企圖を暴露（ベルリン同盟）

五、ソ聯、ユーゴー接近説（國境軍隊撤退説）（バリ報知）、駐伊英大使歸任（ロンドン同盟）七日付夕刊

△國內關係

各紙に地方長官會議の農相訓示があるが、「朝日」には右訓示の外農林省指示事項がある。其他「報知」に「久原總裁、再び町田總裁訪問か、中島總裁にも會見申入」、「朝日」に「小

林臺灣總督辭意表明」がある。「報知」これではいのか「ブロック會議と地方切符制」が禁止されたと朝刊に社告してゐるが、極めて反政府的である。「部」狙撃兵欄に「大臣の視察談、内容空疎とお慮成りを併す」がある。

△對外關係

一、日ウルグアイ通商條約批准交換に關する外務省情報部長談

二、外相、セイヤー比島紛務官招待午餐會

△東亞關係

一、興亞院會議（法幣問題對策協議）

二、漢水の敵渡河點を制壓（〇〇同盟）

△歐米關係

一、英内閣更迭必至、後任はハ外相有力（ニューヨーク中外）、ロイド、ヂョーヂ氏の政府攻撃論文（ロンドン同盟）、獨軍の英本土侵入説を放送（テレグラフオ紙主筆（ローマ日））

ニ、バルカン緊迫

（イ）ギリシヤ國境に土軍集結、（ソ）ソフィア同盟（ロ）ブルガリア、土軍集結痛憤（ソ）

ソ接近顯著（ブ）ブタベスト同盟（ホ）バルカンの兵力（朝日）

三、北歐戰況

（イ）ナルヴィック戰鬪續く（ロ）ヒ總統諾戰線に出動説（パリ同盟）（ハ）諾外相渡英（ロンドン日）

四、ソ聯の動向（リ）ガロ日



内閣情報部五・八 情報第一號

西貢佛語放送（七日）

（東京都市遞信局聴取）

一、（ロンドン）英國海軍省の發表によれば本年四月一日以來獨逸の喪失した船舶噸數は三十萬噸に達し昨年九月戰亂勃發以來の合計は實に六十萬噸、獨逸總船舶噸數の一割五分に及んでゐる。

二、（パリ）ノールウエー戰線の戰況に關する公報は昨夜來發表されたものがないが之は北部ノールウエーに於ける軍事行動が尙進行中である事を示すと共にトロンハイムの奪還に第二段の作戰を續しつゝある聯合軍の軍事行動がなほ公表するまでに進展してゐない爲である。獨逸側の宣傳によれば聯合軍は同地域の激戰に於て獨軍のため慘敗の結果トロンハイム以南の地方外は全然手を引くに決したと稱してゐるが四十八時間以來諾軍の同地域に於ける勇敢な反撃は獨逸の宣傳に對する立派な反證でありハルコン王はラヂオを通じて獨逸侵略軍のノールウエーを撤退せざる限り決して和平を期待すべきでないと國民を激勵するに共

一、（パリ）ロンドンよりの情報によると北歐戰爭開始以來英軍のために撃墜された獨逸飛行機數は正確なるもの百三十八機その外にノールウエーの獨逸基地に對する英空軍の爆撃に